

都筑区制20周年記念誌

— 未来につなぐ 笑顔のつづき —



都筑の影絵「水と緑-都市と自然、暮らしの調和」 制作：劇団かかし座

— 1994 都筑区制20周年記念誌 2014 —
— 未来につなぐ 笑顔のつづき —



都筑の影絵「都市と農業」 制作：劇団かかし座

都を筑く まち

平成6年11月6日に都筑区が誕生し、今年、区制20周年を迎えました。

港北ニュータウンに代表されるように「新しいまち」というイメージがある都筑ですが、この水と緑豊かな美しい街並みや文化が、どのようにして築きあげられ、そして受け継がれてきたか。今の時代を生きる私たちが忘れてはならない大切なことがたくさんあります。

過去に感謝と敬意を
そして水と緑を美しく豊かなまちを
すべての人の笑顔を未来へ



都田江川せせらぎ緑道 (写真提供: PHOTOHITO)

都筑区制20周年記念誌

目次

発行を祝って	横浜市長 林 文子	2
発行にあたって	都筑区制20周年事業推進委員会委員長 志村 一郎	4
発行に寄せて	都筑区長 中村 香織	4
都筑の成立	都筑区の記憶 20年の歩み	5
都筑の見どころマップ	都筑の「賑わいと文化」	9
都筑の「賑わいと文化」	都筑の「伝統」	11
都筑の「伝統」	都筑「風花雪月」	13
都筑「風花雪月」	都筑の技Ⅰ「工業」	15
都筑の技Ⅰ「工業」	都筑の技Ⅱ「農業」	17
都筑の技Ⅱ「農業」	都筑の「緑」	19
都筑の「緑」	鼎談「都筑区の20年とこれから」	21
鼎談「都筑区の20年とこれから」	未来につなぐ都筑	23
未来につなぐ都筑	区民インタビュー 未来へのメッセージ	25
区民インタビュー 未来へのメッセージ	20周年の記憶	27
20周年の記憶	あとがき	29
あとがき		31
		33
		34



横浜市都筑区 - 横浜市北部に位置する行政区
■位置 都筑区総合庁舎
 北緯 35 度 32 分 41 秒
 東経 139 度 34 分 13 秒
■面積 27.88km²
■人口 210,443 人
■世帯数 79,756 世帯
(人口・世帯数/平成 26 年 9 月 1 日現在推計)
 横浜市人口ニュース No.1057

都筑区制20周年記念誌の 発行を祝って

「都筑区制20周年記念誌」の刊行を心からお慶び申し上げます。

都筑区は、平成6年11月に誕生して以来、にぎわいあふれる都市と自然が調和したまちとして大きく発展してまいりました。これも偏に、区民の皆様の積極的な取組の賜物であり、心より敬意を表します。

横浜市は、今年、市制施行125周年を迎えましたが、これまでも数多くの「節目」を市民の皆様と大切に共有・共感することで、市民力・地域力が発揮され、横浜の発展の推進力は生み出され続けてきました。

都筑区におきましても、区制20周年という大きな節目の年に、これまでの歩みを振り返るとともに、地域課題の解決に向けて、今後も区民と行政がお互いの特性を生かしながら協働して取り組んでいただくことを期待しております。

この記念誌が区民の皆様への愛着をさらに深いものとし、まちのさらなる発展に結実することを祈念いたします。

平成26年11月1日

横浜市長
林 文子



築きあげてきた礎
はたちの今
未来につなぐもの

都筑区制20周年記念誌の 発刊にあたって

「都筑区制20周年記念誌」の発刊を区民の皆様とともに慶びたいと存じます。

刊行にあたり、ご理解、ご協力をいただきました関係諸団体や区役所をはじめとした行政機関、そして、区民の皆様にご心から御礼を申し上げます。

都筑区が誕生して20年。まちはにぎわいを増し、大きく発展を遂げましたが、ひとつだけ、ずっと昔から変わらないことがございます。それは、「ふるさと」と呼べるまちづくりを進めてきたということです。

港北ニュータウン開発計画など、新しいまちづくりが進んでいく中で幾多の困難に直面しても、地域と行政等が力を合わせながら、その理念を守り、受け継いできました。

結果、水と緑豊かで、若く活気あふれる、誰もが安心して健やかに暮らせるこの「住みたいまち」「住み続けたいまち」都筑ができてきたと考えております。

最後になりますが、この記念誌が、次の世代に受け継がれる貴重な資料となることを、そして、都筑区における地域活動のさらなる発展を祈念しております。

平成26年11月1日

都筑区制20周年事業
推進委員会委員長

志村 一郎



都筑区総合庁舎 (平成26年4月)



区役所通り (写真提供: PHOTOHITO)

都筑区制20周年記念誌の 発刊に寄せて

このたび「都筑区制20周年記念誌」が刊行されましたことを、区民の皆様とともに心からお慶び申し上げます。

平成6年11月6日、港北区と緑区の行政区再編成により都筑区が誕生してから今年で20年を迎えます。今年5月には人口も21万人に達し、区誕生当時と比べると約10万人増加したことになります。

都筑20(つづきはたち)。これまで地域・団体・企業の皆様と行政とが力を結集し、にぎわいがあふれ、安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めてきたことで、都筑区は目覚ましいほどの発展を遂げてきました。

この記念誌にも、区民の皆様による日々の活発な活動がいたるところに感じられ、区民相互の連帯の輪が、さらに強く広がっていくものと確信しています。

はたちの今、これまで築きあげてきた礎の上に、暮らしやすく活力ある、さらなるふるさとづくりを、区民の皆様との協働により進めていければ幸いです。

平成26年11月1日

都筑区長

中村 香織



都筑区総合庁舎屋上から見上げた空 (平成26年5月)

都筑の 成立ち



大塚・歳勝土遺跡（大塚西）竪穴住居7棟などが復元されています。（写真提供：都筑みどりの風景フォトコンテスト2013）

都の礎に眠る証

なだらかな丘陵と谷戸がどこまでも続く自然豊かなこの地に、人が暮らした跡が確認できるのは約1万3千年前。約6千年前には現在の区総合庁舎のあたりまで海が入り込んでいたこともあり、当時の人々の生活の跡である貝塚が多数発見されています。

それは、この都筑という地が、太古の昔から、人々が暮らしを営むのに適した『豊かな土地』であったという証明でもあります。

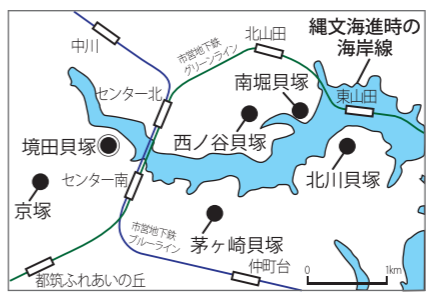
中でも昭和30年に、現在のサレジオ学院中学校・高等学校（南山田三丁目）のグラウンド裏手あたりで発見された「南堀貝塚」では、縄文時代のムラの跡がまとめて発掘されました。さらに、発掘に専門家だけでなく市民も多数参加したことは、当時



南堀貝塚の生活想像図 都筑が海と山に囲まれた自然豊かな土地であったことが伺えます。（提供：横浜市歴史博物館）



南堀貝塚の発掘の様子（昭和30年）（『横浜市史第一巻』より）



としては画期的で、三笠宮崇仁親王も発掘に参加されるなど、全国的にも大きな話題となりました。港北ニュータウン開発事業では、実に268箇所もの遺跡が調査されるなど、都筑の地は、まさに遺跡の宝庫と言え、国の指定史跡でもある「大塚・歳勝土遺跡」では、約2千年前の弥生時代の環濠集落と墓が発見されました。村落と墓地が一体的に明らかになった史跡は、全国的にも学術上価値のある事例でした。

縄文海進時（約6千年前）の海岸線（境田貝塚説明図）当時は海面が今より2〜3メートル高かったと言われ、海が現在の早淵川に沿うような形で区の中央部まで入り込んでいました。

都筑区域関連年表

【先史】縄文・弥生時代

約1万3千年前
約6千年前
約2千年前
区域に集落が形成される（花見山遺跡、月出松遺跡）
区域中央部に海が入り込み、貝塚が形成される（南堀貝塚、折本貝塚）
お墓を備えた環濠集落ができる。稲作が始まり、高床倉庫を備えた集落が出現（国指定史跡 大塚・歳勝土遺跡）

【古代】飛鳥・奈良時代

7世紀
8世紀
律令制度により「武蔵国都筑郡」が置かれる
都筑郡出身の防人の詠んだ歌が万葉集に収められる
長者原（現・青葉区往田西）に都筑郡衙（郡役所）が置かれる

【中世】室町時代

14〜15世紀
小机城の支城として「茅ヶ崎城」（城址は横浜市指定史跡）が築城される

【近世】江戸時代

17世紀
18世紀
関家住宅（国指定重要文化財）に、鷹狩の途中の徳川将軍家が訪れる
大山詣や富士山詣が流行し、大山道の宿場町もにぎわう
富士山まで行けない人のために、各地に富士塚が築かれる

【近代】明治以降

明治4年（1871）
明治12年（1879）
明治22年（1889）
明治40年（1907）
明治44年（1911）
昭和49年（1974）
昭和51年（1976）
昭和58年（1983）
平成4年（1992）
平成5年（1993）
廃藩置県により「神奈川県都筑郡」が置かれる
都筑郡役所が川井（旭区）から川和の妙蓮寺に移転される
郵便局、警察分署などの公的機関も開設され、郡の中心地として賑わう
市町村制の実施により横浜市が誕生する
併せて都田村、山内村、中川村などが誕生する
第六次市域拡張により、横浜市・川崎市に都筑郡域の村々が編入され、「都筑」の郡名が消える。「港北区」が誕生する

【現代】第二次世界大戦以降

昭和30年代後半
昭和40年（1965）
昭和44年（1969）
昭和49年（1974）
昭和51年（1976）
昭和58年（1983）
平成4年（1992）
平成5年（1993）
平成6年（1994）
高度経済成長期を迎え人口が急増し、市内でも様々なところで都市化が進む
横浜市六次市域の二つとして「港北ニュータウン建設事業」が発表される
港北区の行政区再編成により、「緑区」が誕生する
港北ニュータウン造成工事が始まる
勝田町の権田池で国指定天然記念物のミヤコタナゴが発見される
往田南で港北ニュータウンの集合住宅第一次入居が始まる
「横浜市港北区及び緑区の再編成に関する条例」が公布される
横浜市営地下鉄ブルーライン「新横浜〜あざみ野間」が開通する
港北ニュータウン行政サービスセンター開設
新区名の一般公募実施「都筑区」の名称が選定される
（応募総数1084通／名称の種類307）
鴨池公園（旧）もログハウス開設
11月6日 港北区と緑区の行政区再編成により、「都筑区」と「青葉区」が誕生する

ふるさと「都筑」の名に込められた願い

「都筑」という地名が歴史的文献で初めて登場するのは、7〜8世紀に編纂された日本最古の和歌集「万葉集」です。その中のひとつの歌の作者の出身地として「都筑郡」という地名が記されています。

我が行ききの 息づくしかば足柄の
峰遠ほ雲を 見とと惚はね
都筑郡の上丁 服部於由

私がいらないのが息苦しかったら、足柄の峰に這う雲を見て惚んでおくれという意で、九州の警備にあたるため旅立たなくてはならない防人が、別れる妻に詠んだものと言われています。万葉集には、この妻が返した「我が背なを 筑紫へ遣りて 愛しみ帯は解かなな あやにかも



明治12年に都筑郡役所が置かれた妙蓮寺（川和町）
川和の宿地区には、かつて、金物屋やまんじゅう屋、見世物小屋が立ち並び「市」が立ち、遠くから人が集まって賑わいました。
（写真：昭和4年頃の妙蓮寺『御大典記念 都田村誌』より）



「都」の文字が墨書された土器
長者原遺跡（都筑郡衙＝都役所）から出土
（写真提供：横浜市歴史博物館）

を願って選定されました。そのようなことから分かるように、横浜の北西部一帯は、奈良時代から昭和14年に横浜市に編入されるまで、約1200年もの間、「都筑郡」と呼ばれていました。都筑郡は、現在の旭区から川崎市麻生区あたりまでの地域に相当し、美しい丘陵と谷戸がどこまでも「続いている」ところから「つつき（つづき）」となったという説も伝えられています。都筑区の名称は、この歴史的に由来ある地名を受け継ぐとともに、これからの街づくりが、新しい「都を筑く」という区民の総意で進むことを願って選定されました。

近代の都筑の暮らし

明治から大正、昭和の初期頃まで、都筑はそのほとんどが山や畑で、稲作や畑作のほか、酪農や養蚕、果樹、蔬菜園芸が盛んな農村でした。綺麗に手入れされた竹林で採れる新鮮な筍は「中川の筍」として、東京でも高値で取引されるブランド農作物で、中川小・中学校の校章にも竹や筍がデザインされています。また、大正2年の『都筑郡統計書』によると、8月でも気温が20度を下回る日があったり、冬には氷点下3度以下まで冷え込むことがありました。そんな環境を利用して冬場には天然の「水採り」が行われていました。



昭和30年頃の春の農作業の風景
現在の北山田交差点（北山田四丁目）付近。左上に見える頂上の平らな山が山田富士。（写真提供：金子三千男氏）

国の天然記念物に指定された淡水魚の「ミヤコタナゴ」が、昭和51年に勝田町にあった権田池で発見されたという記録も残っています。雑木林では椎茸や堆肥作りが行われるなど、東京都心部からわずか約25km、横浜中心部からは約12kmしか離れていない場所にもかかわらず、まさに「人と自然が共存した暮らし」が営まれてきました。



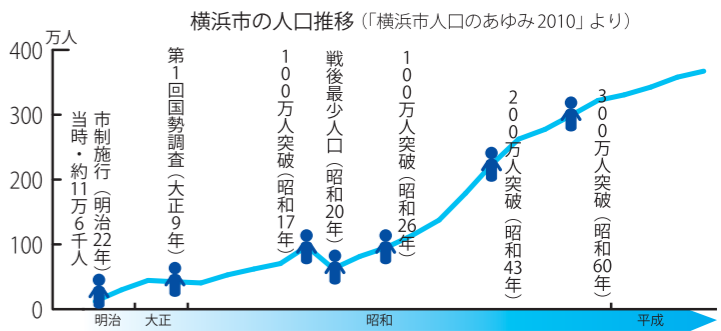
いまでも区内にたくさん残る竹林
愛護会や地域の皆さんの協力で保全されています。ライトアップイベントでは幻想的な風景を浮かべます。（左：大塚・歳勝土遺跡公園 右：横浜国際プール）
（写真提供：都筑の風景フォトコンテスト2010）

都の礎に刻まれたもの

のどかな都筑の丘に大きな変化がみられるようになったのは、今から50年程前のことです。終戦直後、62万人程まで減少した横浜市人口は、高度経済成長期を迎えた昭和30年代には、170万人以上まで一気に膨れ上がりました。急激な成長・発展と、その裏にある混乱と混乱。郊外地にも怒涛のように人々が流入し、無秩序に環境を破壊してしまうような開発も進んでいきました。こうした乱開発を未然に防ぎ、都市農業が確立し、住環境の



都筑中央公園のモニュメント 円環を形づくっている異なる3つの弧は、未来に向かって発展する街・港北ニュータウンの実現を目指して、一体となって力を合わせてきた地元四地区協議会、住宅・都市整備公団、横浜市の三者を表現しています。（写真提供：都筑みどりの風景フォトコンテスト2013）



整備された新しいまちを「市民参加のもと」に創り上げるといふ、まさに理想郷の創造とも呼べるような理念のもとに計画された建設事業が、昭和40年に「横浜市六大事業」の一つとして発表された「港北ニュータウン建設事業」でした。区北部から中央部に広がる計画区域は、過去に類を見なかった大規模な開発で約2530ha、東京ディズニーランド約50個分（東京ドーム約541個分）に相当しました。

住み良い街をつくるために

港北ニュータウン建設事業が開始し、土地区画整理や道路工事を進めるためには、もともと住んでいる人から土地を提供していただく必要があったため、40%先行買収、35%の減歩*等の条件が決められました。昭和49年に発表された「港北ニュータウン基本計画」によると、

計画区域には約4万9千人が暮らしていたとされています。本当に多くの人々が、先祖代々受け継いできた大切な土地や住居、暮らしを手放しました。自分の力でやっとの思いで切り開いた畑を泣く泣く手放した人もいました。時には、自らの手で家を取り壊し、また、お墓を改葬したりしました。

そういった身を切るような痛みや先の見えない不安、苦悩に耐えてくださった方々がいたからこそ、「緑の環境を最大限に保存するまちづくり」「ふるさとをしのばせるまちづくり」等を基本方針とした先進的な都市景観は実現しました。

*【減歩】区画整理などで道路・公園などの公共用地を生み出すために、各所有者の所有地面積を整理前より減らすこと。

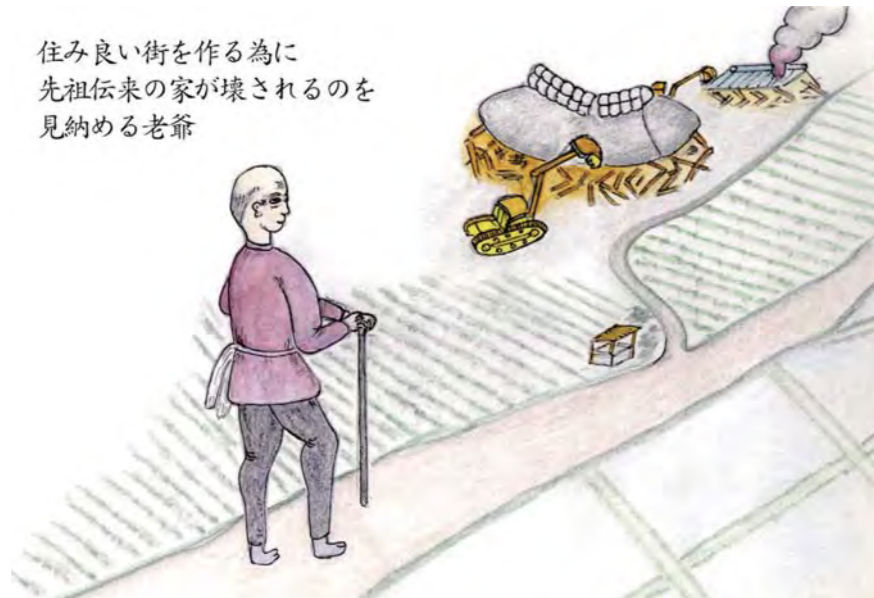


国指定重要文化財 関家住宅
（勝田町）区内でいまでも残されている最も歴史ある関東地方でも最古級の古民家。主屋は、木材の加工痕や構造などから17世紀前半の建築と推定されます。
*通常 非公開
（写真提供：つづき交流ステーション）



港北ニュータウン造成当時（平成8年）区総合庁舎の屋上から区役所通り、センター北方面を望む

住み良い街を作る為に
先祖伝来の家が壊されるのを見納める老爺



絵) 男全富男 著 「失われたものの記録『望郷』より



都筑の影絵「丘陵の開発ーふるさとをしのぶ、新しいまちづくりへの挑戦」制作：劇団かかし座



16 都筑中央公園 (茅ヶ崎中央)
港北ニュータウン地区画整理事業により誕生した区内最大の総合公園です。池やレストハウス、駐車場も整備されています。



17 中川八幡山公園 (中川七丁目)
早瀬川沿いの半島が突き出たような小高い丘の上にある公園です。大きな桜の木と港北ニュータウンの街並みの見事な眺望が楽しめます。



18 山崎公園 (中川四丁目)
港北ニュータウンの遊歩道で繋がっている公園で、夏は屋外プールで賑わいます。親水広場もあります。



15 鴨池公園とこどもログハウス (住田東三丁目、住田南一丁目)
道路をはさんで大きな池と広場のある公園です。5月には色とりどりのツツジが咲きそろう。広場側には、こどもログハウスがあります。池側では、公園愛護会を中心に、トンボやホタルが生きていける環境を守る活動が盛んに行われています。



14 新緑の緑道 (写真は「ささぶねのみち」)
延長約15kmの自然豊かな緑の幹線は「グリーンマトリックス」と呼ばれ、新しくも、ふるさとの景観を感じられる都筑が誇る魅力資源のひとつです。



13 川和富士公園 (富士見が丘)
港北ニュータウン建設事業により再現された富士塚です。晴れた日には、標高74メートルの頂上からは、富士山・ベイブリッジ・ランドマークタワー、さらには、東京都庁舎も展望できます。



12 江川せせらぎ (佐江戸町、池辺町、東方町、川向町)
都筑水再生センターの高度処理水が街に潤いを与えながら流れる江川せせらぎ緑道。遊歩道が整備され、四季折々の花を眺めながら散歩できます。特に、第三京浜の港北インターチェンジの上流の川岸には、ソメイヨシノやチューリップが数多く植えられ、息を飲むような美しい景観が広がります。(都筑の影絵「都田江川せせらぎ緑道」制作：劇団かかし座)



11 月出松公園 (加賀原一丁目)
縄文中期の竪穴式住居跡や土器などが発掘された、遺跡の上に整備された公園。初秋にかけて、万葉の時代から多くの歌人に詠まれた萩の花が咲きます。



10 東方天満宮 (東方町)
境内には約250本の梅の木が植えられ、中には、中国から贈られた緑萼梅もあります。花の香りを楽しみながら散歩できるように遊歩道もつくられており、2月には、例年梅祭りが催され、多くの人々が訪れて早春の一日を過ごしています。



9 真照寺 (折本町)
境内左手に、佐藤惣之助の詩碑があります。「大なる田舎 光栄の川 自然の祭」は、都筑の豊かな自然を讃えたもの。この詩碑のわきに、市の名木・古木に指定されているハクモクレンが大きく枝を広げ、3月には、春の訪れを告げる白い清楚な花を咲かせます。



8 せせらぎ公園と古民家 (新栄町)
自然林に囲まれた大きな池のある公園です。池には水鳥が泳ぎ、6月ごろから睡蓮の花が訪れる人の目を惹きつけてくれます。古民家の建築は、その手法から18～19世紀と推定されます。復元された間取りは「広間型三間取り」と言い、当時の農家の特徴が伺えます。



7 茅ヶ崎城址公園 (茅ヶ崎東二丁目)
中世の城郭、茅ヶ崎城址を歴史公園として整備した公園。各郭(居住区域)、空堀、土塁、土橋、井戸などの跡を見ることができます。



6 正覚寺 (茅ヶ崎東三丁目)
400年の歴史をもつこのお寺は、天台宗の長屋山総持院と称し、一年中花の絶えることのない「花の寺」として有名です。



5 旧長沢家住宅主家と馬屋 (都筑民家園) (大棚西)
大塚・歳勝土遺跡公園内にある、牛久保村にあった古民家を移築・復元しました。奇棟造の茅葺きで、間取りや柱の構造的特徴から18世紀中頃からそれ以前の建築と推定されます。市指定文化財。



4 大塚・歳勝土遺跡 (大棚西)
環濠集落と方形周溝墓群が一体につくられた、約2千年前、弥生時代の人々のムラの遺跡。学術上の価値の高さから昭和61年に国の史跡に指定されました。現在は、竪穴式住居7棟などが復元され、区民憩いの公園になっています。

見どころ マップ



行きたいところに行けるまち

同時に、港北ニュータウン建設事業では、バリアフリーを意識したまちづくりを進めてきました。さらに平成22年には、センター北・南駅周辺地区で、市のバリアフリー基本構想を策定するなど、高齢者や障害者もより円滑に移動等ができるまちづくりが進んでいます。

小さな子どもたちも、ベビーカーを押すお母さんやお父さんも、杖をついているおばあさんも、車椅子のおじいさんも、行きたい所に行ける、みんなに優しいまちがここにあります。

住みたいまち 住み続けたいまち

区誕生から20年。市営地下鉄グリーンラインも開通し、区中心部や幹線道路沿いには、大規模な商業施設等が続きと開業し賑わいを増す一方で、それぞれの地域では、古き良き文化や伝統を受け継ぎながら、地域資源や特性を活かしたまちづくりが進められてきました。

また、区南部にはまとまった農業専用地区も残され、身近なところで自然の恵みや風土の恩恵を受けることができ、さらには、鶴見川沿いには市内屈指の工業地帯も広がるなど、先人たちが夢に描いてきたように、まさに「自然と人の営みが調和した、ふるさとをしのばせるまち」がつくられてきました。

写真提供：
都筑の風景フォトコンテスト2010(3・20)
都筑みどりの風景フォトコンテスト2013(14・16)
高松寛氏(4)

山田富士公園 (北山田一丁目)
江戸時代の富士信仰で築かれた富士塚は『新編武蔵風土記稿』(文政11年)に登場する古い歴史があります。春は桜が見事です。



山田神社 (南山田町)
その草創は明らかではないが、『新編武蔵風土記稿』にある棟札の記事から、少なくとも室町時代末期まで遡ることができます。現在の本殿は天保13年(1842)に造営されたもので、その凝った造りや彫刻と建物との調和が素晴らしい、市の文化財に指定されています。



徳生公園 (南山田一丁目)
高層住宅群の中心にある大きな池のある公園です。毎年9月の「水辺の祭典」では、願いを書いた約600個の灯籠が魅せる幻想的な光景が夏の終わりを告げます。



都筑の賑わいと文化



踊る
歌う
情熱にふれる

第17回都筑区民文化祭 舞台部門 (平成25年1月) (写真提供: 都筑区民文化祭実行委員会)



第19回都筑区民まつり センター南ステージ (平成25年11月)

まちにふれる 人にふれる

毎年11月3日に開催される「都筑区民まつり」。区誕生から続く区内最大のお祭りです。150を超える団体・企業等のブースが軒を連ね、センター南・北両駅前周辺と両駅を結ぶ延長約800mの歩行者専用道路・みなぎたウォークの3会場がひとつにつながり、延べ15万人以上の人が賑わいます。

また、毎年10月に開催される「福祉農園」。こちらが区誕生当時から続く一大イベントです。子どもも大人も、障がいのある人もない人も、みんな同じ時間と気持ちを共有し、音楽や自然の恵みを楽しみ、力をあわせてサツマイモを収穫します。都筑の秋の爽りは、「人を想う心」です。



第18回福祉農園 (平成24年10月) (写真提供: 都筑区社会福祉協議会)



星空のコンサート～DREAM OF CLASSIC～
センター南駅前すきっぷ広場で毎年8月に開催しているクラシックコンサート。「本物の音」が都筑の夏の夜に幻想的に響き渡ります。(写真提供: 都筑クラブ・つづき交流ステーション)

新旧住民を文化でつなぐ

平成23年度に実施した区民意識調査では、区が誕生した翌年以降に住み始めた人が全体の6割にのびります。しかし、そんな「新しいまち」だからこそ育むことができた、誇れる文化があります。

中でも、毎年1～2月にかけて開催する都筑区民文化祭は、区民による区民のための区内最大規模の文化のお祭りで、参加者一人ひとりが創り上げる出会いと創造の場です。毎年多くの人が展示部門(写真や絵画など)と舞台部門(ダンスやコーラスなど)に参加しています。昔から住む人も、最近住み始めた人も、好きなこと、そして、笑顔でひとつになっていきます。

まちの魅力 まちの力

計画的につくられたまちならでは「開かれた空間」が、このまちの賑わいや盛んな文化活動を創出し、人々をゆるやかにつなげています。自転車・歩行者専用道路や駅前広場、公園などでは、毎週のように様々な催しが開催されています。朝も、昼も夜も。春も夏も、秋も冬も。人々が自然とふれあい、笑顔になれる「場所」と「時間」が都筑にはたくさんあります。



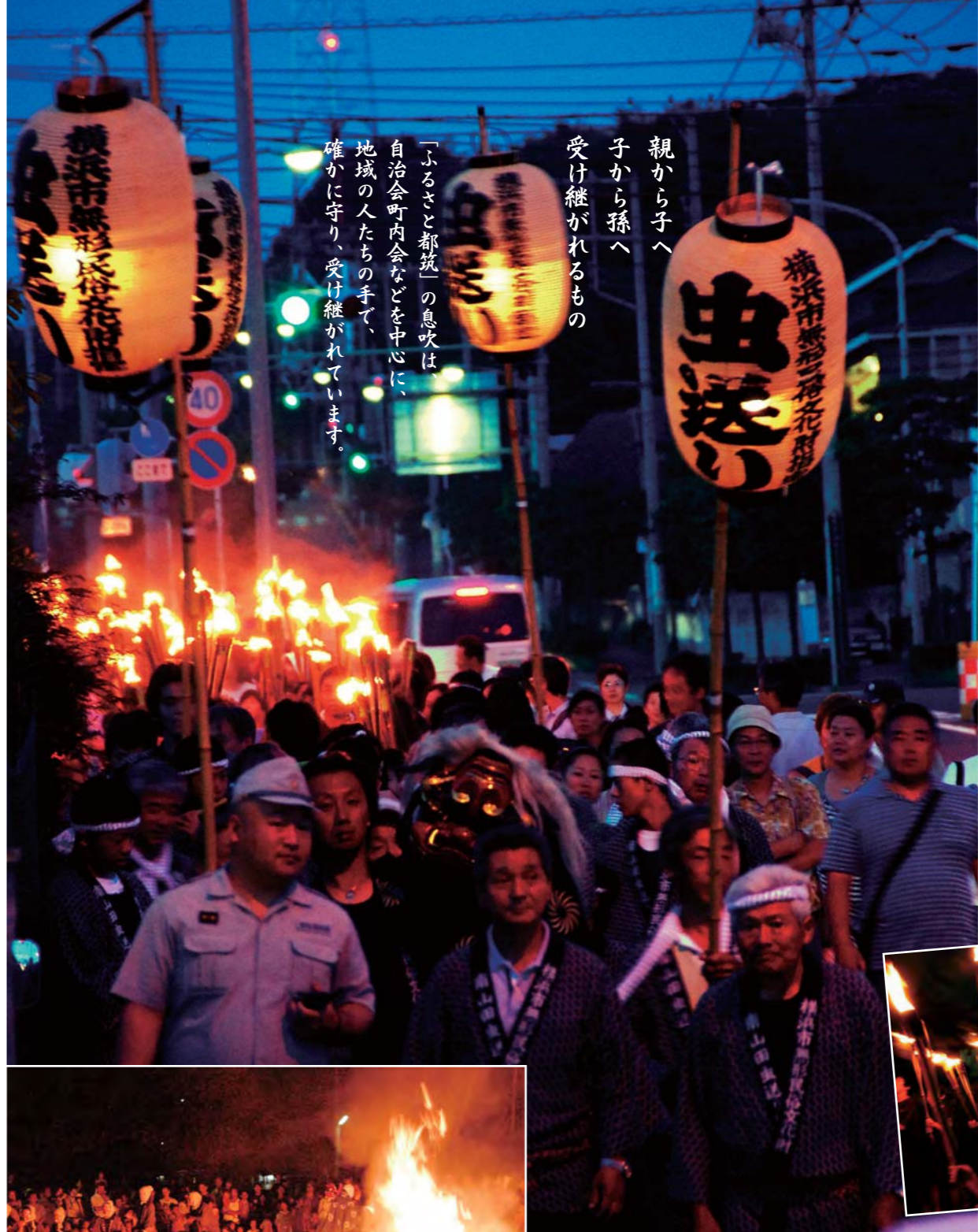
右: 荏田南近隣センター商店会の朝市 (写真提供: つづき交流ステーション) 左上: 中川駅前の歩道橋 左下: 仲町台駅前商店街



作る 創る
未知にふれる

都筑・遺跡公園・民家園アート月間発見! 都筑サファリツアー。(大塚・歳勝土遺跡公園) 中学校美術部による動物をつくるワークショップの展示。大人も子どもも日常の中で自然と様々な文化・芸術活動に触れることができます。(写真提供: NPO法人都筑民家園管理運営委員会)

都筑の伝統



「ふるさと都筑」の息吹は、自治会町内会などを中心に、地域の人たちの手で、確かに守り、受け継がれています。

親から子へ
子から孫へ
受け継がれるもの



南山田 虫送り

かつては一面田んぼだったこの地域で受け継がれている、稲につく害虫を松明のあかりで集めて村の外まで送り出し、豊作を願う伝統行事。毎年土用入り後の土曜日、200本を超える松明が夏の夜を照らします。

戦後中断した時期もありましたが、昭和51年に復活。保存会、町内会、子供会、消防団、学校など、地元の様々な団体、人々が協力し、最近では、まちの人の災いを払う意味も込めて実施されています。

平成17年には、横浜市無形民俗文化財に指定されました。

写真：平成21年7月



池辺 花籠と廻り地蔵

池辺町にある杉山神社の秋の豊作や無病息災を祈る例大祭において披露される伝統の花籠。花籠は、人の2倍ほどの高さで20キロ以上の重量があり、その花は毎年一つひとつ手づくりで染めて作られています。重い花籠を大きく回す池辺独自の艶やかな演舞は、どこか懐かしい、ふるさとの色や匂いを思い出させてくれます。

また、かつては多くの地区で行われていた「廻り地蔵」という風習。都筑では池辺町のいくつかの地区で受け継がれています。

厨子に入られたお地蔵様は、10日間程、その家で大切に祀られ、そして次の家に担いで廻り届けられます。昔、流行病がおきた時に子どもを救うために始まったとも伝えられています。

幾百年の時を超え、まちの人の安寧と子どもたちの健やかな育ちを、今日も変わらずに見守ってくれているこの廻り地蔵の風習のうち、「池辺町荻根廻り地蔵講」は、平成25年に「鶴見川流域の廻り地蔵」として、横浜市無形民俗文化財に指定されました。



池辺町八所谷戸の廻り地蔵
木彫のお地蔵様には、廻る家々の子どもたちの名前を書いた赤い襷（たすき）が掛けられています。厨子の重さは約20kgと、担ぐには少しコツと力が必要です。（写真：平成26年6月）



最近では地元の中学生も小さめの花籠で演舞を披露しています。（写真：平成25年9月）

無病息災 五穀豊穰

「どんど焼き」。地域によって呼び名は様々。でも、その年の無病息災や五穀豊穰を祈って正月飾りなどを燃やすのはどこも同じ。区内各地で受け継がれているお正月の伝統行事のひとつです。



すみれが丘公園でのどんど焼き
「燃やした時に書初が高く舞うと字がうまくなる」といった言い伝えも残っています。（写真提供：都筑の風景フォトコンテスト2010）

心踊る

お祭りには欠かせないお囃子。都筑には12の連があり、伝統を守りながら、いまも地域のお祭りに華を添えています。

心踊る笛や太鼓の音色と見る人を誘いこむ不思議な舞。

いつか聞いた、懐かしいあの祭囃子が今日もどこかで聞こえてきます。



都筑区民まつりでのお囃子（写真提供：ジュノー株式会社）

都筑の道

良き道辿れば 良き里あり
良き道辿れば 良き町あり

江戸時代の都筑区域には、江戸と相模を結ぶ中原道と大山道が通っていました。また江戸の人たちが折本村の淡島神社に詣でるための「あわしま道」も通っていました。大熊町に文政7年(1824)在銘の「南あわしま道」と刻む道標がその名残を伝えて

ま道」に刻む道標がその名残を伝えてい

ま道」に刻む道標がその名残を伝えてい



旧中原道(池辺町)
(写真:筆者提供)



『江戸名所図絵』の淡島神社(現・折本町)
(筆者所蔵資料)



「南あわしま道」と刻む石碑(大熊町)
(写真左:筆者提供・平成8年11月、右:平成26年5月)
位置と向きが少し変わっています。

様々な呼び方がされてきました。都筑区域では、凡そ3.6mの道幅を起伏が続く都筑の丘の山田・大熊・勝田・池辺・佐江戸の各村を上り下りし、途中で早淵川と鶴見川の2河川を渡っています。江戸時代初期には、徳川家康や秀忠が民情視察を兼ねて鷹狩りに使った道ともされています。一方、急ぎの旅人が江戸に向かうときには、東海道よりも短距離であったためこの道を利用し、さらに薪や炭、稲米、年貢米などを江戸へ運び込むための道でもありました。

寛文11年(1671)に、佐江戸村と中山村(緑区中山町)で人馬の継立を巡って争いを起こしました。この時の幕府の判決で伝馬役と駄賃馬の継立を行う宿場は、小杉村・佐江戸村・瀬谷村・用田村の四か村と決められました(『川崎市史 資料編2 近世』)。また、街道の一定区間を定めて各村々が掃除を負担する掃除丁場も決められていました。「相州中原海道新道掃除場間数覚 巳年」(企画展「江戸時代のよこはま 都筑の村々」所収 関恒三郎氏所蔵文書)によると、勝田村地内の七六一間(約1.4km)は勝田村の他に、牛久保村・茅ヶ崎

村・吉田村・綱島村・箕輪村といった近隣の村々がそれぞれ負担していたことがわかります。

文化面では、江戸の俳諧が中原道沿いの農村に入ってきたのは江戸時代後期になってからです。渡邊華山の俳画を挿絵とした文政7年(1824)の太白堂六世孤月編『桃家春帖』(筆者蔵)に折本村と大熊村の俳人の句が入集しています。折本村の「無齋山生」と杜春齋栢雅、大熊村の花月亭杜松の3人です。江戸地廻り経済の発達や識字率の高まりとともに、村の中に風雅の世界に親しむ上層農民がいたことを物語っています。

江戸時代後期には霊峰富士を信仰する富士信仰が盛んとなりました。都筑区域でもこの頃から近代にかけて信仰が盛んであったことが、富士山を模した富士塚や富士講関係の石碑からうかがい知れます。山田村・川和村・池辺村には富士塚が築かれました。川和富士、山田富士、星谷の池辺富士(元富士)及び新富士です。池辺富士塚の寛政8年(1796)9月在銘碑や川和富士の明治24年在銘からかつての富士講の隆盛ぶりが伝わってきます。

明治時代以降の都筑区域の各村には、汽車や電車の便がなく交通事情が悪く、横浜や東京にでかけるには、乗合馬車及び自動車あるいは自転車に頼らざるを得ませんでした。乗合馬車は、大正時代に大熊より千年を経て中原村上丸子まで連絡していました(『都筑郡々勢一班』大正12年刊)。昭和に入ってから、乗合馬車から乗合自動車や自転車へと交通手段が変わっていきました。昭和初期に乗合自動車は大熊から新丸子まで

と、大熊より綱島まで一日に6、7回通っていました(『自治沿革史 昭和風土記』昭和6年刊)。ただ昭和の時代に入ってから道路は砂利が少なく、雨が降る度にぬかるみ状態となり、走行するのに苦勞の連続であったといえます。

期から幕末にかけて旅籠、飲食店、髪結屋、足袋屋、木賃宿、紺屋など25軒から35軒の店舗が軒を連ねていました。牛久保村など近隣の村人たちは、宿場で油揚げ・のり・酢・酒・白砂糖・豆腐といった食品を買求める場所でした。日常生活を支える大切な役割を宿場が果たしていました。また、この界隈から溝口方面に出かけるときの足として、大正時代には乗合馬車が荏田より溝口・二子まで

行き、さらに玉川電車へと連絡して行きました(『都筑郡々勢一班』大正12年刊)。

(文・郷土史家 相澤雅雄)



山田富士(北山田一丁目:山田富士公園内)(横浜市登録史跡)本物と同じ数ののぼり口や頂上には噴火口があり、お鉢回りまでできるほど精巧に築かれています。
(写真左:筆者提供・昭和58年頃、右:平成26年4月)



池辺富士(池辺町)池辺町の農業専用地区の真ん中にそびえる。頂上には鳥居も立っています。
(写真左:筆者提供・昭和58年頃、右:平成26年4月)



川和富士(富士見が丘)現在の川和富士は港北ニュータウン開発のときに築かれたものですが、天気がよければ、ランドマークタワーやベイブリッジまで見渡せます(標高74Mは区内一の高さ)
(写真左:旧・川和富士(昭和55年頃・川和中学校提供)、右:雅に染まる川和富士/提供:都筑緑の風景フォトコンテスト2013)





16



18



17



15

- 15 大塚・歳勝土遺跡公園付近から富士山を望む
- 16 雪の大塚・歳勝土遺跡
- 17 折田不動公園の梅
- 18 東方天満宮の梅

さんかんしおん
三寒四温
冬季に寒い日が三日ほど続くと、その後四日間ぐらゐは暖かい日が続く現象。気候がだんだん暖かくなる意にも用いる。

いちようらいふく
一陽来復
冬が終わり春が来ること。新年が来ること。また、悪いことが続いた後で、ようやく良い方向に向かうこと。

都筑 風花雪月

四季折々の自然の美しい景色のこと。



02



03



04

おうからんまん
桜花爛漫
桜の花が満開になつて、みごとに咲き乱れるさま。「爛漫」は花が咲き乱れるさま。

しゅんじのまち
春日遅遅
春の日が長く、暮れるのが遅いさま。春の日がうららかなので、しかなさま。「遅遅」は春のながいさま。ひねもすのたりのたりの意。

- 01 中川八幡山公園の桜
- 02 川和町駅前菜の花畑
- 03 都田江川せせらぎ緑道の桜とチューリップ
- 04 早淵川親水広場の桜



01

冬

公園の寒椿



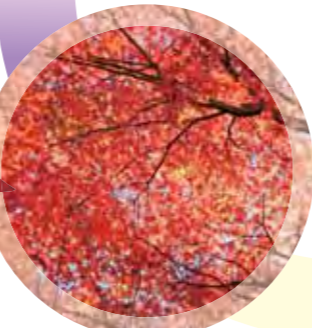
春

池の淵のサクラソウ



秋

緑道の紅葉



夏

青い空と入道雲



- 10 ささぶねのみちの紅葉
- 11 渋谷橋付近の水面
- 12 山王山大鷲神社の紅葉
- 13 月出松公園の夕日
- 14 妙蓮寺の銀杏



11



12



13

ひからくよう
飛花落葉
絶えず移り変わるこの世の、無常なことのたとえ。春に咲く花も風に吹かれて散り、青葉もやがて枯れ落ちる意から。

しゅうこうばひ
秋高馬肥
さわやかで、気持ちの良い秋を表現する言葉。秋の空が晴れ渡るようになると、馬も食欲を増してたくましくなるといふこと。



10



14

川和の菊

区南部、川和町で江戸時代から行われている菊の栽培は「川和の菊」として有名で、戦前は近隣の小学校が遠足で見物に訪れたり、また、多くの皇族や著名人に親しまれてきました。毎年11月にセンター南駅構内で開催されている「都筑菊花展」では、その鮮やかな色や香りで多くの人を魅了しています。同展は平成26年で第28回を迎えます。



ローザ・つづき (都筑中央公園)

フランス、ロワール地方の中核都市アンジェの南に、オービニエ・スール・レイヨンという町があります。この町と都筑区との友好関係を記念し、平成12年に、この町の近郊のパラ園で作られたバラが命名され、都筑区に贈られました。



07



06



05

- 05 大熊川沿い東方農業専用地区の紫陽花
- 06 山田富士公園のサルズベリ
- 07 かきのき公園前のケヤキ並木
- 08 せせらぎ公園の睡蓮
- 09 区総合庁舎前の通りのメタセコイヤ

へきらくいつせん
碧落一洗
大空が青々と晴れ渡ること。「碧落」は青空のこと。「一洗」はさっぱり洗い流す意。

九夏三伏

きゅうかさんぷく
夏の最も暑いころをいう。「九夏」は九旬の夏の意で、夏の九十日間。夏いはいを指す。三伏は初伏(夏至後三日目の庚の日)、中伏(四度目の庚の日)、末伏(立秋後の最初の庚の日)のこと。



08

写真提供：PHOTOHITO (1・3・18) 都筑の風景フォトコンテスト2010 (7・10・12・14・15)
都筑みどりの風景フォトコンテスト2013 (4・5・6・8・11・13・16) つづき交流ステーション (17・川和の菊)
四字熟語引用『新解明 四字熟語辞典』(三省堂編集所【編】【第二版】)

都筑の技工業

市内有数の企業集積地が形成された理由

区南部の鶴見川沿いの地域は、昭和30年代まではそのほとんどが田んぼでしたが、現在、市内でも屈指の工業地域「内陸北部工業地域」が形成されています。

戦後高度経済成長期を迎え、新たな工場用地を求めていた企業の条件としては、「都心から距離が近いこと」、「大きな道路に面していること」、「電波障害や塩害がないこと」などが求められていましたが、昭和37年に横浜線鶴見駅が開業し、港北ニュータウン建設計画の発表や第三京浜道路の開通、緑産業道路の着工など、次々と大規模なインフラ整備が続いた鶴見川沿いのこの地域は、まさにそういった条件に適していました。

まず最初に佐江戸町に進出してきたのが、松下通信工業(株)で、昭和42年に第一期工事を完了。昭和44年には日本電気(株)が池辺町に進出したことで、その後、関連中小工場などの進出が相次ぎ、地域はその様相を一変していくことになりました。

現在では、金属加工、電気機械などを扱う製造業が数多く立地しており、必要な環境整備や共同事業を行うための組合も組織さ



昭和40年代前半の佐江戸町工場群
写真:『緑区史』より(提供:パナソニック)

れています。また、鶴見川沿いに限らず、港北ニュータウン事業の土地所有者の申出に基づき行われた換地により、東山田工業団地や早瀬工業団地など、工業系の土地利用が集約されている地域もあります。さらに、港北ニュータウンの区画整理が行われた区域では、昭和50年代から企業誘致が積極的に行われ、外資系企業や日本の大手企業が誘致されました。現在も、豊かな自然と緑を残しつつ、良好な住環境と調和しながら企業の本社や研究所、データセンター、商業施設が多数進出しています。

港北ニュータウン地域と内陸北部工業地域は、平成16年に施行された「横浜市企業立地等促進特定地域における支援措置に関する条例」の対象地域にも選定されており、今後も、企業立地等の促進を図り、併せて市民雇用の増大及び市内企業の事業機会の拡大を図ることにより、横浜市経済の活性化に寄与することが、ますます期待されています。

卓越した技術と経験

市内でも有数の製造業集積地があるため、優れた中小製造業が地域の経済や雇用に重要な役割を果たしています。金属加工、電気、電子、機械、化学・プラスチックなど、多岐にわたる分野において、卓越した技術と経験により、顧客のニーズにきめ細やかに対応した製品を生み出しています。そのようなことから、都筑区では、区内中小製造業の企業経営安定化と雇用の維持を図るため、「メイドインつづき推進事業」を実施し、冊子や技術展示会において、区内中小製造業のオンライン技術・優れた製品を紹介しています。

企業と地域のつながり

つづき博士倶楽部

「学校と地域が連携して教育を推進していく」という横浜市の教育理念にご賛同いただいた優れた人材、高度な技術を備えた企業・事業所のご協力により、平成13年に「つづき博士倶楽部」が発足しました。主に区内に立地する企業・事業所が、小中学生のために、その専門分野を生かした講座を開催しています。平成25年度には、11の企業・団体により、延べ32講座が開講されました。



詳しくは、都筑区ホームページをご覧ください。

メイドインつづき 検索



港北ニュータウン・誘致企業等(平成7年4月当時)

- 【研究所】
リコー、デュポンジャパンリミテッド、ナムコ、トーヨーイーストマン・コダックジャパン、スズキ、アイネスボッシュ、日立製作所、SRA、京セラ、日本オリベッティ新日本気象海洋、フォード自動車[日本]
 - 【研修所】
日産生命、日製産業、テック電子
東芝エレベータテクノス、日本石油、住宅・都市整備公団
 - 【研究・研修所】
ソディック、オンワード樺山
 - 【本社(兼研究所)】
フェスト、図研、サカタのタネ、東京沪器
クリエートメディック
 - 【事務所】
三菱倉庫、チェースマンハッタン銀行、葵プロモーション
日産プリンス神奈川販売、ニコル・レーシング・ジャパン
 - 【学校・教育機関】
東京横浜独逸学園、洗足学園、サレジオ学院
武蔵工業大学
 - 【その他】
伊藤忠商事(電算センター)、メトロ自動車(営業所)
日本住情報交流センター
横浜市室内水泳競技場(横浜国際プール)
- その後もまちの発展にともない、出入りがあったりもしましたが、20年の時を経た現在、数多くの企業の研究所・本社・研修所、また商業施設などが進出しています。

(『港北ニュータウン』横浜市都市整備局、住宅・都市整備公団港北開発局より)

内陸北部工業地域と港北ニュータウン地域



平成25年度「つづき博士倶楽部」開講企業等
東京ガス(株)、テュフ・ラインランドジャパン
(一社)神奈川県自動車整備振興会、スズキ(株)、第一カーボン(株)
京セラ(株)、(株)資生堂リサーチセンター、いであ(株)、関東運輸局
横浜市水道局、横浜市資源循環局(順不同)



テュフ・ラインランドジャパンによるドイツ講座



東京ガスによる講座

ハマロードサポーター

ハマロードサポーターとは市民や地域の企業、ボランティア団体が、行政と協働して、道路の清掃や美化活動を行い、身近な道路を守り育てていく活動です。
昼休みや就業後の時間を利用して、会社周辺の道路の清掃や美化活動に会社ぐるみで取り組んでいます。近隣地域と合同で清掃活動を行うなど、企業ごとに取組を工夫しながら、美しい地域づくりのために熱心に活動しています。



東山田ハマロードサポーター

都筑の技Ⅱ 農業



池辺・都田農専の方向を望む(平成26年4月)

港北ニュータウン開発と農業

「都市農業の確立」をその理念のひとつに掲げた港北ニュータウン建設事業。港北ニュータウン土地画整理事業エリアは、9割以上が山林・原野、畑、水田で、宅地その他は5%ほどの農村地帯だったため、大量の農地が存在するエリア全域を開発する

ことについては、当初から市内でも問題意識があり、開発と農家の共存の形態が模索されていました。

この状況を踏まえ、市は昭和43年に「港北ニュータウン農業対策要綱」を定め、一部の地区では、農業専用地区内の土地と開発予定地区の営農継続希望者の農地との交換分合を行ったうえで、農業専用地区として、港北ニュータウンの南側を中心に約230haの土地改良した農地を整備しました。

現在では、農家戸数が市内18区中第1位、経営耕地面積でも第2位と、市内でもトップクラスで農業が盛んな区となっています。また、農業専用地区は、都市農業の確立を図るとともに、区における景観的、防災的な観点でも大きな役割を果たしています。



◆農家戸数		
第1位	都筑区	564戸
第2位	青葉区	511戸
第3位	泉区	461戸

◆経営耕地面積		
第1位	泉区	29,105a
第2位	都筑区	22,489a
第3位	緑区	20,071a

資料: 2013(平成25年)版都筑区統計要覧 政策局統計情報課(2010年農林業センサス平成22年2月1日現在)



塚塚台(東方町)(写真提供:都筑みどりの風景フォトコンテスト2013)

土にふれる ― 区の特産と身近な農業

区の特産の代表である「小松菜」は、全国でも有数の生産地です。輸送等で傷み易い軟弱野菜でもあります。都市近郊の産地ならではの新鮮な小松菜を味わうことができます。

消費地である住宅地が隣接しているという都市農業の立地を生かし、農家による直売が盛んに行われています。例えば、日本では横浜で初めて食用に栽培されたトマト。通常は、運搬からお店に並ぶまでの時間を考慮して少し青いうちに収穫しますが、ここでは、真っ赤に熟してから収穫した新鮮なトマトを味わうことができます。

港北ニュータウン開発が進んできた昭和50年代からは街角などで朝市が定着しており、各地では開始時間前から常連のお客さんが集まり品定めをする光景が見られるなど盛況です。区内には農協の直売所も設けら

れ、新鮮で美味しい野菜や卵を求めるリピーターの姿も多く見受けられます。毎月第2・4土曜日には区総合庁舎でも「都筑野菜朝市」が定期開催されています。

一方、梨やブドウなど、果樹栽培も盛んです。その歴史は古く、明治末から大正初期には鶴見川左岸の川向、池辺で栽培が行われていました。当時は水害が多かったのですが、梨栽培は柵が痛む程度で比較的強かったことや戦後都市化が進む中で近在に消費者が増加したこともあり、野菜から梨専作へと転換を図る農家が増え、さらに昭和47年からは市の「フルーツパーク設定事業」により谷本川沿岸等で梨栽培に対する支援がなされたことなどから、いまでは「浜なし」の産地のひとつとなっています。

詳しくは、都筑区ホームページをご覧ください。

都筑野菜
検索



浜なし畑



トマトの水耕栽培



区総合庁舎駐車場横での都筑野菜朝市



IKEA 港北での朝市



都筑ふれあいの丘駅前での朝市(写真提供:JA横浜)



農業専用地区以外にも農地がたくさん残されているため、子どもたちが、身近なところで土に「農」にふれる機会が、都筑にはたくさんあります。

桂田小学校(桂田南町)での恒例の田植え 小学校のすぐ隣の田圃で、毎年、苗から収穫まで全ての作業を子どもたちと保護者、地域の人達で行っています。植えているのはもち米で、収穫量は約700Kg。秋にはもちつき大会が開催され、実りを体感、美味しく頂きます。(写真:平成26年6月)

都筑の 緑



牛久保公園 (写真提供: 都筑みどりの風景フォトコンテスト2013)



ふじやとのみち (平成26年4月)



写真: 右上から時計回りに/センター南駅前の花壇、せせらぎ公園のカワセミ (写真提供: 都筑みどりのフォトコンテスト2013)、徳生公園のコサギ (写真提供: PHOTOHITO)、佐江戸江川せせらぎ緑道の清掃活動、せせらぎに咲くクレソン、浄念寺川せせらぎ緑道、茅ヶ崎公園愛護会の清掃活動、早淵川 (大崎橋)

緑の幹線 グリーンマトリックス

港北ニュータウンでは、古くからの記憶を残す山裾の屋敷林や、谷に沿ってベルト状に連続する斜面林などを極力残した上で、台地の部分の土を削って平らな住宅地を造成して主に高層の集合住宅を配置しています。

削った土を谷に埋めると平らな土地が多くなるとは、開発方針である緑を残すことを実現するために、斜面にあった山林は残し、谷を埋める時は平らではなくV字の地形をつくるように造成しました。さらに、隣接する住宅や施設、学校等の敷地内にも保存緑地を十分に確保していくことで形成された延長約15kmの緑豊かな幹線は「グリーンマトリックス」と呼ばれ、新しくも、ふるさとの景観を感じられる、港北ニュータウン独自の魅力資源となっています。

そして、美しい緑道が整備された都筑ならではの催しもあります。



(上) 葛ヶ谷公園 (写真提供: 都筑みどりの風景フォトコンテスト2013)
(下) せせらぎ公園 (写真提供: 都筑の風景フォトコンテスト2010)

都筑 緑のデータ



緑道総延長 約15Km
グリーンマトリックス総面積 約90ha



区域面積における公園の割合 5.74%
区民1人あたりの公園面積 7.69㎡
いずれも金沢区に続き 市内第2位
(平成25年3月31日現在、区域面積、人口は平成25年4月1日現在)



区内の公園数
平成7年100園→平成24年 138園

11月のウォーク&フェスタでは、秋色に染まった緑道の美しさに息を飲みます。3月の都筑ふれあい健康マラソン大会(旧・都筑区民ロードレース大会)では、10km走るコースも。春の息吹を肌で感じながら、緑のトンネルを楽しみます。

水の音にまどろむ せせらぎと小径 ふるさとを守るちから

港北ニュータウン建設事業では、「ふるさと」をしのばせるまちづくりの一環として、田んぼの側に小川が流れている風景を残していくべく、新しい街の中にせせらぎを再現することを目指しました。

せせらぎの水源は、人工的なものだけでなく自然な水循環を図り、公園に池を造って降った雨や滲み出す湧水を貯め、少しずつ自然に流れるようにしています。また、こうしたせせらぎ空間にも調和するように、公園や緑道の道についてはコンクリートやブロックといった人工物はなるべく使わず、土や石など極力自然のものにしています。

緑の環境を積極的に保存する取組により、

スイセン、クレソンなどの多様な植物、動物、昆虫、野鳥などの生き物がそと見守られています。佐江戸の江川せせらぎ緑道では、6月になると、地域の人たちと地元の小中学校の子どもたちが大切に育てたホタルが放流され、ふるさとの情景が映し出されます。

しかし、こういった美しい環境は、当然にそこにあり続けてくれるものではありません。約150もの公園愛護会と3つの水辺愛護会、30を超えるハマロードサポーターなど、自治会町内会をはじめとした地域の方々、企業、学校等、本当に多くの人々の日々のためまぬ努力と協力があった、この美しい緑と環境は保全されています。

川和市民の森

市営地下鉄グリーンライン「川和町駅」から徒歩10分の緑地を活用し、平成26年4月に開園した市民の森。大切な自然を保存するために、山林所有者の協力により樹林地などを市民憩いの場として利用する市の制度を活用した、区内では初の事例です。敷地面積は約3.5ha。ヤマザクラなど、四季折々の花々と、展望広場からは富士山の眺望が楽しめます。



都筑区 水と緑の散策マップ

区制20周年事業として、「都筑区 水と緑の散策マップ」がリニューアルしました。都筑が誇るかけがえのない自然やまちの魅力が満載で、見どころが散策コースごとにまとめられています。

価格: 200円 区役所一階売店で好評販売中
問合せ: 区政推進課企画調整係
TEL 948-2226



忘れてはならない 新たなまちづくりの原点

水野 都筑区は誕生からの20年間で、にぎわいにあふれた活力あるまちへと大きく発展を遂げました。その要因はどういったところにあるとお考えでしょうか。

長谷川 港北ニュータウンの開発で地元地権者の方々が区画整理に協力したことが、現在のまちづくりの発端となっています。その後の横浜市の計画的なまちづくりによって、誕生時、約11万人だった人口は21万人を突破しました。このまちに新しく来た人たちも、古くから住んでいる人たちも、「市内で一番住みたいまちは都筑」と胸を張って頂けているのではないのでしょうか。

水野 地元の方々が先祖代々の土地を、身を切る思いで提供してくださったことが大きいわけですね。さらに農業を残すという気持ちも強かったように思います。企業の観点からはいかがでしょう。

青木 昭和61年12月に港北ニュータウンに店舗を開設しましたが、初めて港北ニュータウンを訪れた際、先人の皆さんの、このまちを住みよいまちにしたという揺るぎない思いに感銘を受けました。また、行政の皆さんにも地域住民や私たちのような新たな企業と一体となってまちづくりを盛り上げていくという熱い思いを強く感じたこともよく覚えています。

受け継がれる 地域の絆

水野 つまり、高齢者だけでなく、広い意味での「人のつながり」が大事だと思いますが、都筑はその点においてもしっかりとっていて、地域と学校の交流活動も盛んですよね。

長谷川 私の地元、江川せせらぎ緑道などでは、毎年、愛護会を中心に小学生とチューリップを植えるなど、花を咲かせる活動を何十年と続けています。近年は学校からの要望もあり、中学生も積極的に活動に参加するようになりました。

青木 そういう活動を拝見していると、地域の絆を大切にしているという昔からの風土・環境がしっかりと受け継がれているのが都筑なんだと思いますね。

水野 どうしても「新しいまち」というイメージが強いですが、長い歴史のあるまちでもありますので、伝統行事もたくさんありますね。夏祭りやどんど焼きなどの伝統行事はぜひ残していつてほしいですし、新たな住民がそうした行事に参加することによって、地元で溶け込みやすくなり、住民同士が顔見知りになっていく中で地元がますます好きになっていくと考えています。

長谷川 そうですね。子どもたちの健やかな成長を地域全体で見守っていくという風土は昔から強くありますから、お祭りなどの行事をうまく活かして、地域全体の取組として広げていくことが大事だと思います。

都筑 鼎談

都筑区の 20年とこれから

都筑区制20周年を記念し、長年、区の発展に多大な貢献をしてくださった、長谷川秀男さんと青木寶久さん、水野恭一さんをお迎えして、「都筑区の20年とこれから」について語って頂きました。

長谷川 森茂初代都筑区長の「人の温もりを実感する生活文化都市を目指して、新たなまちづくりを将来に向けて進めましょう」という言葉が忘れられません。この20年間で、住宅地だけではなく、農業専用地区や市街化調整区域、商工業地域などの整備とともに、生活関連施設の充実も円滑に進められ、住まいを構えるには最適な環境のまちづくりができたと思っています。

まちをもっと豊かにしていくために いまできること

水野 最後に、これからの都筑区はどんなまちになってほしいと思いますか。

青木 皆さんの知り合いに「どこにお住まい

水野 そうしたことが、直近の区民意識調査で「住み続けたい」と回答した人が8割を超えている理由の一つですかね。

ところで、青木さんがご覧になって区民の特徴的なところは何かございますか。

青木 おしゃれなお客さまが多いと感じています。おしゃれといっても、みんなからかけ離れているのではなく、相いれる中で「すてきね」とあこがれられるようなセンスの良いお客さまが多いですね。

長谷川 そういえば、昔、青木さんが出店するときに尋ねたことがあるんです。「この辺に一番多く住んでいる狸はスーツ着れないけどいいですか？」って。そんな冗談も今ではこうやって笑い話にできるぐらい、人も増えて賑やかなまちになりました。

高齢の人も増えているけど、皆元気でいられるのは、医療・福祉関連が充実し、そして安全で緑豊かで、買い物にも気軽に出かけられる素晴らしい環境のまちになったということにほかならないと思います。

水野 私は、昭和56年に開業して30年以上、区民の皆様を診てきましたが、地域の高齢者が他人のお世話にならずにいつまでも元気に暮らしていくという健康寿命が一層大事になっていきます。区内の医療機関もこの20年で、夜間急病センターをはじめ飛躍的に充実してきましたが、今後は、在宅医療が増えていく中で、医師と看護師、介護士等医療関係者だけでなく、民生委員、自治会町内会等、地域のみんなが協力し合うことで、いま以上に高齢者も元気に暮らせる活気あるまちにしていければと思っています。

ですか」と聞かれ、「横浜の都筑区です」と話したときに、「あそこはきれいなまちだよな。自分たちも住みたいな。引っ越したいな。」と想ってもらえるような魅力がたくさんあって、2代、3代にわたって住み続けることができるまちになってほしいと思います。企業住民である私たちも、区民まつりなどの人をつなげる催しをこれまで以上に応援していきたいと思っています。

長谷川 子どもたちが健やかに成長できる環境づくりに向けて、多くの皆さんにまちづくりに参加していただくことが、このまちのさらなる発展につながると思っています。区内には計画的につくられたまちならではの自転車・歩行者専用道路や15kmにも及ぶ緑道・138の公園、駅前広場などの資源がたくさんありますから、それらをもっとうまく活用し、人々を結び付けられたらいいと思います。

水野 20周年のテーマは「都筑20（はたち）未来につなぐ 笑顔のつづき」です。住民の皆さんがいつまでも住み続けたいまちにしていかなければならないですし、安心・安全なまちとして、先輩たちが築き上げたいろいろなつながりをより強くしていくことが大事だと考えています。子どもからお年寄りまで、誰もが、どこかで誰かとながっている安心感に満ちている、そんなまちになってほしいですね。

平成26年7月8日 区役所特別会議室にて

Profile



青木 寶久
TAKAHISA AOKI

区内に本社を置く株式会社AOKIホールディングス（AOKI Holdings Inc.）代表取締役副会長。区内約150社の異業種経営者らで構成する「都筑区懇話会」の会長も務める。区の発展と文化向上に寄与。平成21年には「都筑区政功労者表彰」、平成26年には「都筑区民栄誉賞」を受賞。



長谷川 秀男
HIDEO HASEGAWA

第二代都筑区連合町内会自治会長として新旧住民の交流につとめ、街の安全や美化に貢献。「水と緑」都筑区公園愛護会会長、区民交流協会理事長などを歴任。平成21年には「都筑区政功労者表彰」、平成26年には「都筑区民栄誉賞」を受賞。



水野 恭一
KYOICHI MIZUNO

都筑区医師会会長。都筑区制20周年事業推進委員会副委員長、都筑区制20周年記念誌編集会代表を務める。医師・区医師会長として、長年、地域医療の発展と区の「こども青少年育成計画」の策定など、区の福祉向上に寄与。

未来につなぐ 都筑

明日への力
まだまだ増え続ける人口
新しい道路や開発が続く街並み
子どもも大人も活力があふれる
人も企業も輝くまちに



港北ニュータウンの夜景 (写真提供: PHOTOHITO)

平成23年度に実施した区民意識調査では、実に8割以上の人が都筑区に「住み続けたい」と回答しており、その理由としては、「緑や水辺の環境」「街並みの景観」や「道路」が整備されていることがあげられています。

また、平成19年の商業統計調査や平成22年の国勢調査によると、区内の売り場面積の推移が市平均の3倍近い数値で、労働力人口の対前増減率も7.8%と、市平均のマイナス1.7%を大きく上回るなど、ますますの発展が期待されています。

さらに、都筑図書館の1日あたりの貸出

数(平成24年3746冊)が、中央図書館を除き市立図書館で最も多くなっているなど、様々な指標から、この20年の時の中で築き上げられた、「都市と自然が調和した豊かなまち」としての魅力や活力、活発な区民性を伺い知ることが出来ます。

この20年を新しい礎に、今まで以上に、古き良き文化を大切にしながら、人と人を結び、地域の絆を深め、誰もが健やかに毎日を安心して暮らしていける、この「住みたいまち」、住み続けたいまち「都筑を、子どもたちにも大切につないでいくことが、いま求められています。

子どもたちが地域をつなぐ

区の最大の特徴のひとつは「子どもが多い」ことです。15歳未満の子どもの割合は17.9%(平成25年・市平均13.1%)と第1位で、区内で最も高い町(中川六丁目)では28.8%となっています。公立では、22の小学校と8つの中学校があり、約2万1千人の児童生徒が通学しています。中でも、中川小学校は明治7年の開校で140年以上の歴史があります。

各校では、ずっと地域とのつながりを大切に、子どもたちと地域が交流を深める様々な取組を積極的に進めてきています。見守り活動や美化活動だけでなく、時には田植えをしたり防災訓練をしたりと、たくましく、そして優しい心を育てる体験・交流の機会を地域の特色を活かしながらつくっています。

それは、時代とともに社会や地域のあり方が変わっても、子どもたちの健やかな育ちを地域全体で見守ることが、「ふるさと」と呼べる、誰にとっても暮らしやすい豊かなまちを築いていくのに、何よりも大切なことだと考えているからです。

ふるさとはいまもここに

ありがとうございます。いつもの場所で見守りを「おはよう」といつも笑顔で、ハイタッチ町の人のぬくもり感じた。どんと焼き消防団 仲間の親が 支えてる

いづれも、平成24年度に始まった「都筑区自治会町内会川柳コンクール」に応募された小中学生の作品です。その他にも、地域の人のつながりに感謝の気持ちを込めた作品が何百も寄せられました。

地域の大人たちの、このまちを「ふるさと」と思っしてほしいという願いは、確かに、子どもたちに届いています。



(写真: 荏田南小学校学援隊)

都筑区内公立小中学校の校章と設立年

	中川小学校 明治7年(1874)		山田小学校 昭和46年(1971)
	中川中学校 昭和22年(1947)		すみれが丘小学校 昭和50年(1975)
	川和小学校 昭和23年(1948)		川和中学校 昭和55年(1980)
	勝田小学校 昭和44年(1969)		中川西中学校 平成2年(1990)
	都田小学校 明治29年(1896)		中川西小学校 平成6年(1994)
	都田中学校 昭和22年(1947)		北山田小学校 平成8年(1996)
	都田西小学校 昭和54年(1979)		茅ヶ崎台小学校 平成6年(1994)
	茅ヶ崎中学校 昭和56年(1981)		南山田小学校 平成9年(1997)
	荏田南中学校 昭和58年(1983)		都筑小学校 平成9年(1997)
	荏田南小学校 昭和58年(1983)		東山田小学校 平成13年(2001)
	荏田東第一小学校 昭和58年(1983)		茅ヶ崎東小学校 平成14年(2002)
	川和東小学校 平成6年(1994)		牛久保小学校 平成15年(2003)
	川和東小学校 平成6年(1994)		早瀬中学校 平成22年(2010)
	北山田小学校 平成8年(1996)		
	茅ヶ崎台小学校 平成6年(1994)		
	南山田小学校 平成9年(1997)		
	東山田小学校 平成13年(2001)		
	茅ヶ崎東小学校 平成14年(2002)		
	牛久保小学校 平成15年(2003)		
	早瀬中学校 平成22年(2010)		

(写真: 中学生の赤ちゃんふれあい体験)

数字で見る都筑

人口は
区誕生以降の20年でおおよそ2倍に
2050年頃まで増え続ける見込み

人口増加率(平成24年→平成25年)が
1.54%で市内18区中第1位
(市平均0.16%)

出生届数は(平成24年)
2,041件/1日あたり約6件

婚姻届数は(平成24年)
1,061件/1日あたり約3件

区民平均年齢は
34.3歳→40.1歳(平成7年3月31日推計→平成26年1月1日推計)

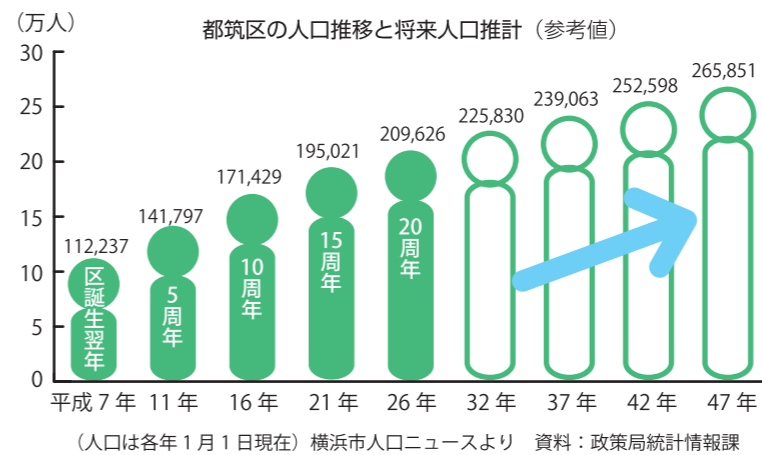
市内18区中最も若い(市:38.9歳→44.4歳)

健康寿命(区別平均自立期間:男女平均)が
市内18区中第1位(83.03歳)(平成23年)

男性の平均寿命(82.1歳)が
全国市区町村別第3位(平成22年)

居住期間別の人口割合(1年以上~5年未満)が
23.9%で市内18区中第1位(市平均18.7%)(平成22年)

15歳未満の子ども割合が
17.9%で市内18区中第1位(市平均13.1%)(平成25年9月30日現在)





お店がたくさんあって楽しいです。
駅も近くてたくさんあって便利です。
キレイで安全なまち。
友達もたくさんできました。
地域もいい人がたくさんで嬉しいです。

新しい人が多いまちですが
市民の文化・スポーツ活動も盛んですね。
子どもも多いですから
街中がにぎやかで
自然と元気をもらえる気がしますよ。



地域のお祭りに参加したときの
みんなの楽しそうな
笑顔やあたたかい雰囲気
忘れられません。
今の時代
なくなってしまうことが多いなかで
新しくも古き良き文化が
大切に受け継がれている
まちなんだと思えました。
人のつながりが強いからです。

区民インタビュー 未来へのメッセージ

あなたにとって「都筑区」って

どんな「まち」ですか？

まちがここまで発展した影には
様々な出来事や苦労があったけど
みんなの笑顔があふれている
いまの都筑というこのまちを私は誇りに感じています。

畑や緑道が大好きです。
トマトといちご、ニンジンも大好きです。
もっとみんなにも食べて欲しいです。



バリアフリーが整っていて
高齢者・障害者にも暮らしやすい
まちだと聞いて都筑区に転居してきました。
車椅子でもいきいたいところにいけるので
お散歩もよく行けるようになりました。
いまは新しい趣味も
見つけることができました。



最近、夫婦でラジオ体操を始めました。
健康寿命も市内で1番ということ
目指せ、全国ナンバーワン！



都市と自然が調和していて
本当に暮らしやすく
子育て環境も充実していますね。
この美しい環境を、子どもたちの代にも
きちんと残してあげたいですね。

20周年の記憶

主な都筑区制20周年事業

「新年賀詞交換会」カウントダウンボード除幕



都筑区水と緑の散策マップ



都筑区×京セラ×横浜市歴史博物館～特別企画展



出張なんでも鑑定団in都筑



都筑区制20周年記念コンサート



人文字航空写真（児童向け資料集）（写真：川和東小学校）



20周年事業紹介パンフレット



20年後へのタイムカプセル



20周年テーマフレーズとロゴデザイン

幸せの象徴である「笑顔」を、今を生きる世代が次の世代につないでいくことにより、笑顔が「都筑」で「続き」ながら明るい未来を築いていきたいという希望を込めています。

丘の上を流れる風、そして、その風によって飛ぶ区の花サクラソウで、区のさわやかなイメージを表現しました。

センター南駅構内の横断幕と記念ピンバッジ



都筑区×劇団かかし座～協賛事業記念映像作品「都を築くまちの物語」



夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会招致



小松菜・ほうれん草の種やサクラソウの苗を配付 都筑区オリジナルはちみつ作り



あとがき

都筑区が誕生し20年を迎えた節目の年に、あらためて「都筑」というまちづくりに込められた思いや出来事を通して、ここから始まったこの記念誌編集作業も、約1年という時間をかけて、ここに無事、終わりを迎えることができました。

これまでも様々な形やテーマで、「都筑」というこのまちのことを記したものはたくさんあります。しかし、「歴史」や「まちづくり」「自然」「環境」、そして「人」など、そういった要素をバランスよく盛り込み、「20年の時を経たいまの『都筑区』とはこんな魅力に満ちたまちである」、そんなことを印象的に伝えられるものはなかなか見当たらない。ならば、そのようなものを20周年記念誌という形でつくることはできないかということが今回の出発点でした。

そして、議論を進めていく中で集約されていった編集方針のキーワードは「愛着と郷愁」でした。移り住んで来る人が多い都筑区ですので、昔からいる人も、新しく来た人も、まちづくりに込められた思いやこのまちの魅力を感じることでも、もっとこのまちを好きになって、誇っていただけるような、区内外に「都筑区」というまちの魅力がPRできるような記念誌になるように作業を進めてまいりました。

区制20周年のテーマフレーズにもありますように、先人たちが受け継いできたこの豊かな都筑区というまちを、このまちに暮らす人々の幸せの象徴である笑顔を、今度は私達が大切に未来につなぎ、希望を託していく番です。この記念誌が、ささやかでもその一助になることができれば幸いです。

最後になりますが、ご多忙にもかかわらず、編集委員をお引き受けくださった8名をはじめ、「都筑の影絵」として、いままでになかった手法で新しい都筑区の魅力表現してくださった劇団かかし座、そして、制作にあたり取材等に御協力頂いた多くの皆様、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

都筑区制20周年記念誌編集会議



代表 水野 恭一

編集／都筑区制20周年記念誌編集会議（順不同・敬称略）

- 代表 水野 恭一（都筑区制20周年事業推進委員会副委員長・都筑区医師会会長）
 辻田 むつ代（新栄早瀬連合町内会会長）
 小泉 光秋（都筑区郷土芸能保存連合会 前会長）
 坂田 信子（都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会会長）
 志村 誠一郎（都田西小学校校長）（平成26年3月まで）
 松井 佳奈子（北山田小学校校長）（平成26年4月から）
 榎 登志裕（荏田南中学校校長）
 栗原 満直（東山田郷土資料館館長）
 相澤 雅雄（郷土史家）



発行／平成26年11月1日
 都筑区制20周年事業推進委員会・都筑区役所地域振興課
 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1
 TEL 045-948-2236 FAX 045-948-2239
 デザイン／企業組合 エコ・アド 印刷／善友印刷株式会社

<表紙・裏表紙・挿絵>「都筑の影絵」制作／劇団かかし座

都筑区南山田に本拠地を置く、日本で最初にできた影絵の専門劇団。(1952年創立)影絵の世界は人々の心を無限の想像へ駆り立てる、ふしぎな性質と魅力をもっています。この性質と魅力をもって「たくさんの人々の心に夢を育てたい」という思いで、創立以来独自の手法で影絵の世界を拓き、多くの作品を生み出してきました。現在は影絵の映像手法を積極的に採り入れた舞台作品をはじめ、出版、テレビ、映像作品などの総合エンターテインメントを全国・世界に発信しています。今回、都筑区制20周年にあたり、記念誌・協賛事業記念映像作品の制作に特別協力を頂きました。



都筑の影絵「南山田 虫送り」(横浜市指定無形民俗文化財)

<主な参考文献・資料>(本文中に記載外)

住宅・都市整備公団 港北開発局「港北ニュータウン まちづくり館情報ファイル」・「港北第一・第二 土地区画整理事業竣工記念写真で見ると港北ニュータウン」・「港北ニュータウン 四半世紀の都市づくりの記録」・「港北ニュータウン グリーンマトリックスシステムによる緑の保全と活用」・「萬葉集④<全四冊>新編日本古典文学全集 9」小学館、『都筑郡中川村勢要覧(1936)』、(財)港北ニュータウン生活対策協会設立20周年記念写真集刊行委員会「写真集 港北ニュータウン むかし・いま、そして未来へ…」、金子保著「港北ニュータウン 理想郷がすぐそこに～緑豊かな街づくりに30年」、都筑区政推進課「『まちのギモンが解ける 都筑1コマ劇場』、都筑区・都市計画局「都筑区まちづくりプラン 横浜市都市計画マスタープラン 都筑区プラン 平成14年5月」、相澤雅雄執筆「昔と今の出会い・街角の歴史を訪ねて」朝日エコー「緑区域の歴史をつむぐ」タウンニュース緑区版 平成22年、緑区郷土史研究会考古部会「古代の都筑をまなぶ1 南堀貝塚の原始集落 講師 岡本勇氏(1980.6.15)」、港北ニュータウン行政サービスセンター職員自主研究「歴史発見グループ」-「私たちの都筑～都筑の歴史と文化～」、港北ニュータウン記念協会「港北ニュータウン ふるさと伝承記録集-2012年版-」、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所「鶴見川流域誌 流域編」



都筑まarmorくん

- 他にも
- ・記念式典
 - ・中学生絵画コンクール
 - ・ご長寿ベッタ表彰
 - ・保育園児による都筑区お誕生日パネル展
 - ・小学生2分の1成人式作文集
 - ・20周年を振り返るパネル展
 - ・広報よこはま20周年特集号
 - ・ズーラシア&都筑区タイアップイベント
 - ・緑道案内板更新
 - ・アフリカ(ボツワナ・アンゴラ)国際交流イベント
 - ・記念切手作成 などを実施